

- 開催中！文化財課企画展
弥生時代へGO！-2000年前のイワター P1～2
- いわたのこんなお話 P3
- WEBで文化財だよりを楽しもう！ P4
- コラム『みどころがいっぱい！
御厨駅周辺の文化財』谷口安曇 P4



©磐田市

開催中！
文化財課企画展



-2000年前のイワター

とき 令和2年8月1日(土)～8月30日(日)

午前9時～午後6時

入場料 無料

(毎週月曜・28日(金)休館、土日は午後5時まで)

ところ 磐田市立中央図書館 展示室(磐田市見付 3599-5)

今年、磐田市は、平成の市町村合併から15周年にあたります。この節目の年に、磐田市の原点をさぐることを目的として、現代の日本社会の基盤である水田での米づくりが開始された弥生時代の市内の様相を紹介します。

今回は、食生活や住まい、墓、信仰などの各テーマごとに弥生時代の遺跡から発見された遺構(建物の跡など)や出土品について紹介します。およそ2000年前のイワターの姿をタイムマシンに乗ったつもりで、ご覧ください。

今回の企画展の3つのみどころを紹介します。いずれも貴重なものばかりです！

みどころ1 ★ 米づくりの証拠、石庖丁 いしぼうちょう

1つ目は、弥生時代に朝鮮半島を経由して中国大陸から伝わった磨製石器（石器の表面全体を磨き上げて仕上げた石器）です。

磐田市内では、木の伐採や各種の木材加工用に使われた斧や

鍬などが出土していますが、その中でも、御殿・二之宮遺跡から出土した石庖丁は県内でも数点しか出土していない貴重品です。石庖丁は、穴の部分に紐を通し、指をひっかけて水田での稲穂の刈り取りにもちいられました。米づくりに懸命に精を出した弥生人の姿が目に浮かんできます。



石庖丁

※石庖丁の長さ 11 cm

みどころ2 ★ 遠くの村に運ばれた弥生土器

馬坂遺跡（勾坂上）の墓から出土した約 2100 年前の壺形土器は、クビの部分に細長い優美な形で、表面に弧状の模様や爪形の刺突痕を連続的にほどこすなど、すぐれた造形を見せてくれます。これらの特徴をもつ土器の分布は中東遠地域に広がり、地域性を見せます。

また、これらの土器に類似したものが、天竜川をさかのぼった長野県南部地域でも多く出土しています。さらに、近畿地方を代表する巨大な村である奈良県唐古・鍵遺跡でも見つかっており、交易などによって持ち運ばれたと考えられています。



馬坂遺跡の壺形土器

※壺形土器の大きさ 42 cm

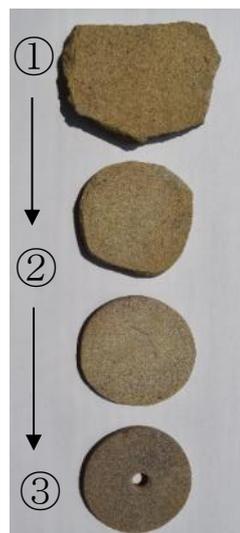


馬坂遺跡の壺形土器にほどこされた弧状の模様（左）と爪形の刺突痕（右）

みどころ3 ★ 初公開の紡錘車 ぼうすいしゃ

新平山遺跡（下野部）では、竪穴住居跡から 10 点の紡錘車が見つかりました。紡錘車とは糸を撚るための道具で、弥生時代に朝鮮半島から伝わりました。これらを初公開します。

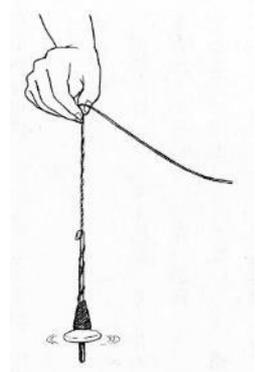
これらには完成品ばかりでなく、未成品も含まれていました。製作の各工程で廃棄されたもので、付近の河原で拾ってきた石を、①割って形をととのえ、②砥石で磨き上げ、③真ん中に穴をあけて完成させたことがわかります。また、完成品には、抽象画のような絵が刻まれたものが見られますので、ぜひ会場でご覧ください。



新平山遺跡の紡錘車

（上から順に製作工程を示す）

※一番下の完成品の大きさ 5.7 cm



紡錘車の使用イラスト
出典：潮見 浩 1988 年
『図解 技術の考古学』

今回紹介したみどころ以外にも ★

実際に棺として使われた大型の土器を展示したり、加茂東原 I 遺跡（富丘）で発見された、村のまわりを囲んでいた防御のための濠の一部を再現しています。これらを通して、弥生時代を体感していただきたいと思います。

いわたのこなお話

あまつぼやまふどうぞん 雨壺山不動尊

磐田市の北端にあたる上野部地区。その集落の奥深くに、地元の方しか知らないお堂があるのをご存じでしょうか。今回は、そのお不動様をご紹介します。

栗下の集落をさらに奥へ

集落があるところからさらに奥へ進みます。舗装道路も途切れると、そこは「雨垂（うたり）の谷」と呼ばれる場所です。ネーミングも読み方も変わった地名ですが、要するに雨が垂れる（落ちる）ところ、川や滝、池がある場所という意味のようです。車では行けない細い道になってからしばらく歩くと、「山之神様」があります。

辺りは誰もいない静かな杉林で、木立ちの間からのぞく日差しが美しく感じられます。「山之神」は林業に携わる人たちにとっては大切な守り神で、今でも祭日は仕事を休みにしてお祭りをしているところもあると聞きます。

ついに…雨壺山不動尊に到着

こんな場所に…と思うような尖った岩盤の頂上に小さなお堂があります。小川が流れており、また石段も慎重に歩かないと滑りそうです。

お堂も石段も、さぞかし作るのに苦労したのではないかと思います。



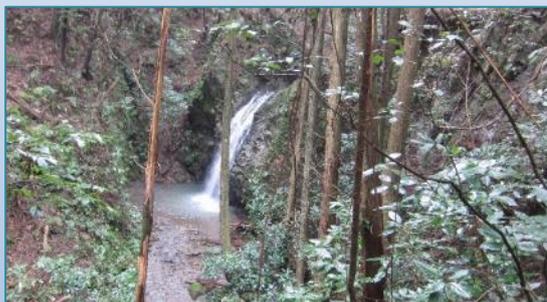
雨壺山不動尊へと続く石段



雨壺山不動尊

近くには滝があります。不動尊は仏教の修行とも関連があり、また水や滝があるところにまつられることが多いので、この場所はぴったりの立地であるといえます。

不動様はわたしたちにとっては比較的身近な仏さまです。仏様の中では珍しく恐ろしい姿と表情をしていますが、本来はさまざまな悪から守ってくれる仏さまで、疫病退散の効果もありますので、皆様も一度はお参りしてみてくださいはいかがでしょうか。



近くを流れる滝

足元に気を付けてお参りください。



山之神と山之神へと続く石段

磐田市ホームページで公開中

WEBで文化財だよりを楽しもう！

パソコンやタブレット、スマートフォンなどから閲覧できます！



ご自宅でいわた文化財だよりを楽しんでみませんか。市ホームページでは、最新号のほかバックナンバーも公開しています。バックナンバーの閲覧方法と、これまでに発行した文化財だよりの中から今月のお勧めをご紹介します！

● 閲覧方法 ●

磐田市ホームページトップページ内のページ番号検索に1007901を入力後、いわた文化財だよりのバックナンバーの一覧から閲覧したい号数をダブルクリックしてください。

● 今月のお勧め ●

終戦から70年を過ぎ、身近な人たちから戦争の体験を直接聞く機会も少なくなってきました。平成29年におこなった企画展『昭和の戦争と磐田』の内容を、文化財だより特別編として連載した148号、149号、150号を読んでみませんか。中部第129部隊址^{あと}などを紹介しています。



職員リレーコラム

みどころがいっぱい！御厨駅周辺の文化財 谷口 安曇

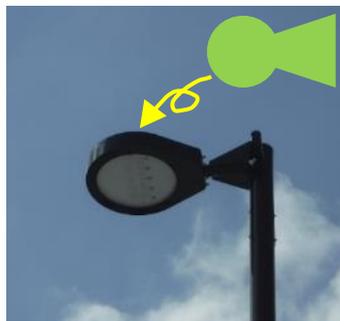
今年3月、磐田市に3つ目のJR東海道線の駅が開業しました。「御厨駅」です。「御厨ってなんだろう、歴史がありそうだなあ」と思いませんか？

「御厨」とは、平安時代に伊勢神宮の所領だった土地のことです。その後、旧村名となり現在もなお地区名として親しまれています。駅名だけでなく、平成13年国史跡となった「御厨古墳群」もこの地名から名づけられました。周辺には、出土品が県指定文化財となっている堂山古墳、医王寺や鎌田神明宮などの古代からつづく寺社があり、この地区は磐田市を代表する文化財の宝庫です。



鞍形埴輪モニュメント(南口)
※ロータリー内に設置されています。
安全な場所からご見学ください。

周辺の文化財めぐりのスタート地点となる駅の南口には、案内看板のほかに堂山古墳から出土した^{とも}鞍形埴輪のモニュメントもあります。ちなみに照明灯は、



前方後円墳をデザインした照明灯

前方後円墳をイメージしたデザインを採用しています。

駅から徒歩圏内にみどころがいっぱいあります。案内看板を参考にぜひ文化財めぐりをしてみてはいかがでしょうか。

編集後記
来月号の文化財だよりは、旧赤松家記念館の内蔵ギャラリーでおこなわれる、赤松則良に関する展示を特集でとりあげます。ぜひ、来月もお読みください。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699
◆WEB版は市HPから閲覧できます。 **磐田市 文化財だより** **検索**

